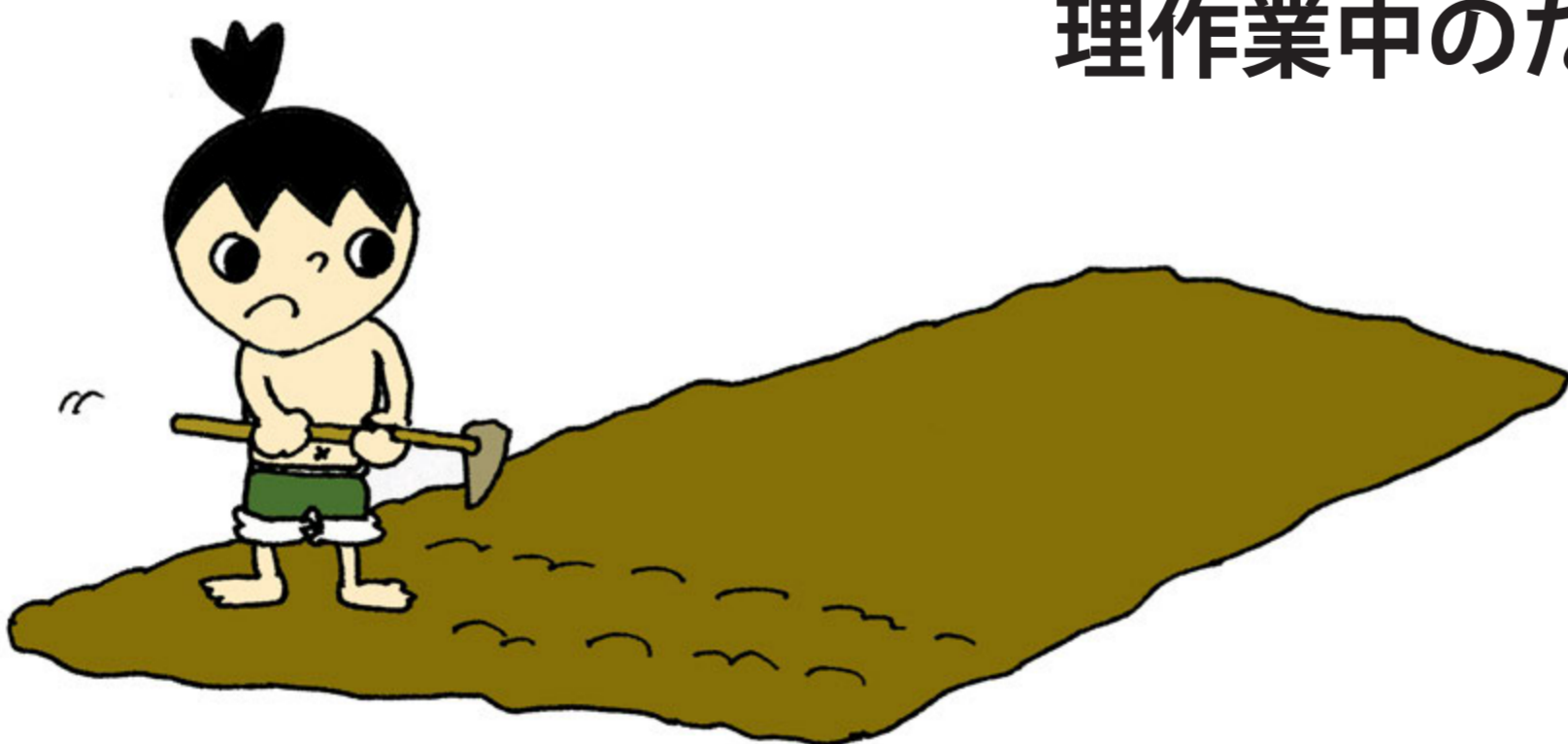


# 古代の成果（1）

川上城跡では掘立柱建物跡と方形土坑が検出され、越州窯青磁や緑釉陶器とともに多くの土師器が出土しました。特に、「下田」の文字が書かれた墨書土器は、1,100年前まで付近の地名がさかのぼることを示します。

山口遺跡と北麓原D遺跡では、掘立柱建物跡の他に畝状遺構がみつかかり、畑をつくっていました。これらの方向は東西南北に合っており、台地上にも律令体制が浸透していた状況をうかがわせます。また、山口遺跡では貝殻を捨てた土坑もあり、6km離れた海の貝を食べていたこともわかりました。

※ 川上城遺跡の墨書土器は、現在、整理作業中のため展示していません。

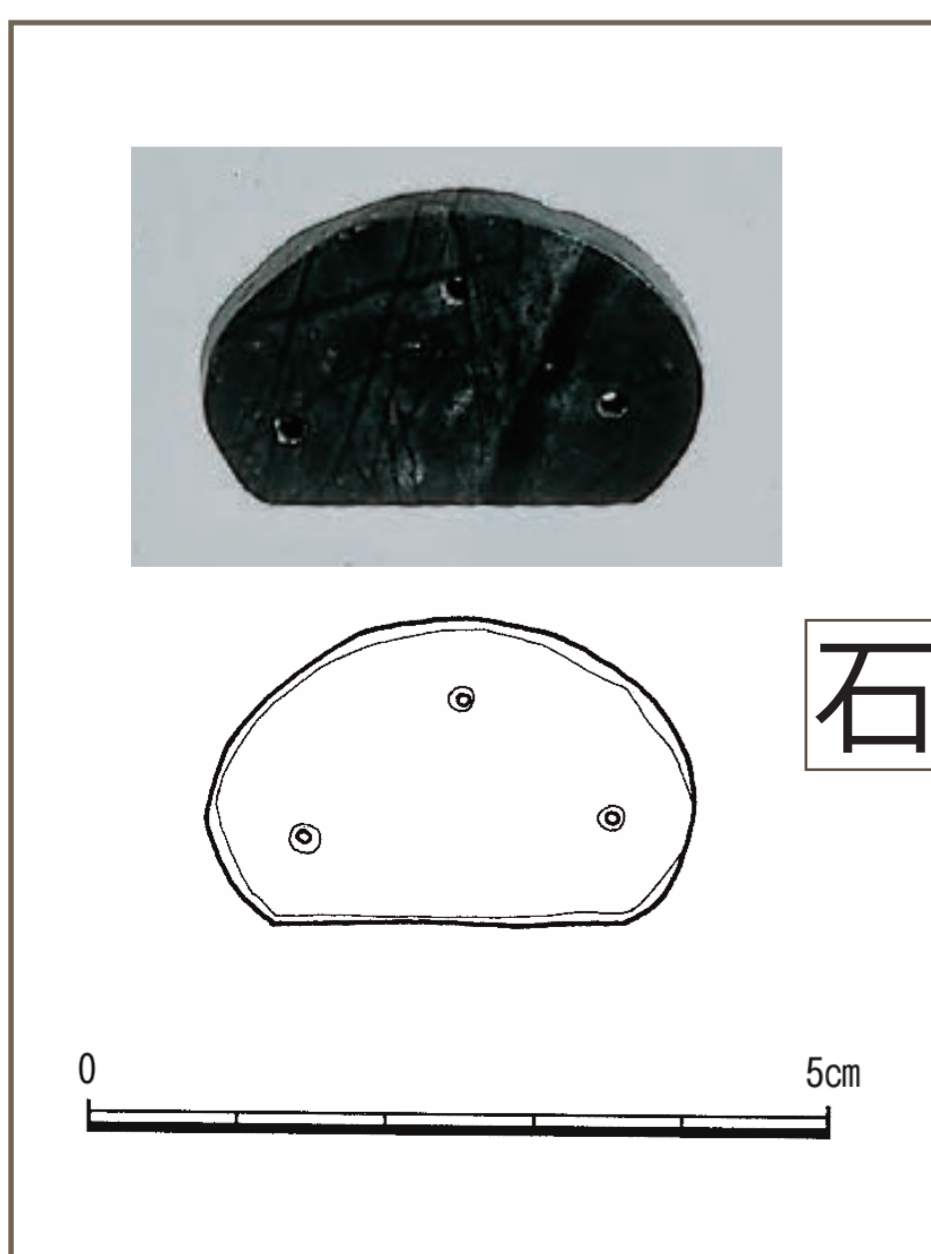


# 古代の成果（2）

芝原遺跡では、多量の墨書土器とともに役人が付けていた石帯<sup>せきたい</sup>が出土し、役所に関連する施設があったことが報告されました。遺跡近くにある中岳山麓窯跡群で焼かれた須恵器も多く、大甕も復元されました。

外畠遺跡の土師甕を伴う土坑は、火葬した時に使われた施設であることが報告されました。

これらの遺跡は、ほとんどが9世紀から10世紀にかけてのものであり、8世紀前半から7世紀代の遺跡は依然として不明のままです。



石帯

